



TITLE:

戦後ノ人口増加政策(三、完)

AUTHOR(S):

米田, 庄太郎

CITATION:

米田, 庄太郎. 戦後ノ人口増加政策(三、完). 経済論叢 1916, 3(5): 713-732

ISSUE DATE:

1916-11-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127111>

RIGHT:

京都帝國大學法學大

經濟論叢

第三卷 第五號

大正五年十一月一日發行

論說

節用論

田島錦治

最小活資ノ免稅ヲ論ズ(一)

神戸正雄

でるゐるひゆゑノ經濟學說(一)

福田徳三

『ころに』の意義ニ就キテ

山本美越乃

課稅ト獨占價格(二)完

高田保馬

代表紙幣ト獨立紙幣(一)

作田莊一

戰後ノ人口増加政策(三)完

米田庄太郎

米券倉庫ヲ論ス(一)

河田嗣郎

雜錄

公營造物ニ關スル美濃部(總田)松本三博士ノ
所論ヲ讀ミテ東京市電車舊乘車券問題ニ及ブ(一)

福田徳三

金紙ノ開キト物價騰貴トノ關係

河上肇

米國ニ於ケル地方財政審査所ノ發達

神戸正雄

富山縣ノ翁媼調査

財部靜治

經濟漫錄(一)

瀧本誠一

戰後ノ人口増加政策 (三、完)

米田 庄太郎

十

開戰前ニ於テ既ニ上ニ述ベシガ如キ人口狀態ニ陷ツテ居ツタ佛國民ニトリテハ、目下ノ大戰爭ハ單ニ人口問題ノ上カラ見テモ非常ナ苦痛デアラネバナラス。るるあ、ぼーりゆあ氏が數代ノ後ニハ現ハレテクルデアラウト恐レテ居ツタ悲慘ナ狀態ハ、數代ヲ待タズシテ戰後目前ニ近ヅケルガ如キ形勢ガ起ルカモ知レナイ。サレバ目下ノ戰爭ガ勃發シタル後モ、佛國政府ヤ識者ノ尤モ恐レテ居ルノハ人命ノ損害デアル様ニ思フ。佛軍ガ敢テ攻勢ヲトラナイヲ見テ、又昨年一寸試ミテ直グニ停止シタノヲ見テ佛國民ノ勇氣ナキヲ笑フ人々モアル様デアルガ、余ハ決シテ佛國人ノ勇氣ガ獨逸人ニ劣ツテ居ルガ爲メニ、彼等ガ花々シク戰爭ヲナシ得ナイノデアルトハ思ハス。彼等ハ今日戰爭ニ於テ失ナフタ人口ハ、戰後中々ニ恢復シ得ナイコトヲ恐レテ、死傷者ノ多キ攻撃ハ敢テシナイノデアラウト信ンジテ居ル。土地ハ失ナフテモ又取リ返ス機會ガアラウガ、一度失ナフタ人命ハ取リ返シガツカナイト云フ彼等ノ思想ハ、單ニ人格尊重ノ念カラ來テ居ルバカリデナク、其ノ裏面ニ彼等ハ如何ニ人口減少傾向ノ壓迫ヲ強ク感ンジテ居ルカラ暗示スルモノデアアル。佛國民ノ人口増殖力ガマダ衰ヘナイ時代ノ佛國人ハカカル思想ヲ抱イテ居ラナカッタ。あいらうノ

戦争ノ夕、なほれおんハ無數ノ死屍ノ累々タル戦場ヲ眺メナガラ、「巴里ノ一夜ハ總テ之ヲ補ナフデアラウ」ト云フタノデアル。併シ近來ハ巴里ノ一夜ハ大ニ變化シテ居ル。今ヤ戦場デハ日々無數ノ佛國人ハ消ヘテ行クガ、巴里ノ一夜ハ寧ロ空虚ニナツテ居ル。サレバカカル光景ヲ見テ祖國ノ將來ヲ非常ニ悲觀スル人々モアルガ、併シ又此ノ戦争ノ大打撃ニヨリテ佛國民ノ大覺醒ヲ豫期シ、其ノ將來ヲ樂觀セント勉メテ居ル人々モアル。何レニシテモ戦後ノ佛國ノ大問題、「明日ノ仕事」ハ人口問題デアルコトハ一般ニ認メラレテ居ル。茲ニ先ヅこるそん氏ガ昨年 *Revue des deux mondes* ニ於テ發表セル一論文「明日ノ仕事」¹⁾ニ就テ、氏ハ戦後如何ニシテ人口ノ増加ヲ圖ラントスルカヲ調ラベテ見ヤウト思フ。

十一

こるそん氏ガ右ノ論文ニ於テ論述サレテ居ル人口政策ハ、大體上ニ於テ *L'Académie des Sciences morales et politiques* ガ昨年三月二十七日ノ會合ニ於テ是認セシモノデアルト、同氏自カラ云ハレテ居ルカラ、少クモ其頃ニハこるそん氏ノ説ノ如キモノガ佛國ノ學者間ニ於テ廣ク行ハレテ居ツタモノト思ハレル。

こるそん氏ハ先ヅ目下ノ戦争ハ愛國心ヤ宗教的感情ナゾヲ復活セシムルコトニヨリテ、戦後佛國ニ於ケル出生増加ノ上ニ有益ナル影響ヲ及ボスモノト考ヘラレテ居ル様デアル。併シ之レト同時ニ氏ハ戦後出生増加運動ガ永ク持續スル爲ニハ、國民ヲシテ祖國ニ對スル義務ノ感情ヲ固持セ

1) Colson, La tâche de demain: la population, *Revue des deux mondes*, 15 avril, 1915.

シムル様、大ニ努力スルコトガ必要デアリ、又此感情ガ國民一般ニ固持セラルル爲ニハ、國家ノ代表者ノ思想ヤ立法ノ全體ガ、ヤハリ此感情ヲ以テ常ニ貫徹サレテ居ルコトガ必要デアルト考ヘテ居ル。更ニ氏ハ戰後國民ガ漸ヤクニ過キ去リシ危險ヲ尙ホ痛切ニ感ジ、之レヲ避クル絶對的必要、祖國ガ存續スル爲ニハ其ハ常ニ強クアラネバナラヌ必要ヲ尙ホ深刻ニ感ジテ居ル其境遇ハ出生ノ増加ヲ圖ル爲ニハ、總テ他ノ境遇ニ於テ到底得ラレナイ好機會ヲ與ヘルデアラウト考ヘテ居ル。而シテ斯カル境遇ノ下ニ於テ子供ノ多キ家族ノ負擔ヲ大ニ輕減スル手段ヲ講究シ、彼等ヲシテ正當ナル取扱ヲ受ケシメンニハ、出生ノ増加ハ大ニ助長サレルデアラウト信ジテ居ル。要スルニ此處ニ於テ氏ハ戰後ノ人口問題ニ就テ一般ニ樂觀的態度ヲトツテ居ル様ニ思ハレルガ、是レ果シテ穩當デアラウカ。氏ノ說ノ發表サレテヨリ一ケ年餘ヲ經過セル今日ニ於テハ、寧ロ悲觀的態度ヲトル人々ガ増加シテ居ル様ニ思ハレル。併シ其ハ後ニ論ンズルコトトシテ、茲ニハ先ヅ此處ニ於テ氏ノ說ノ大要ヲ調ラベテ見ヤウ。

氏ノ論究ハ大體上二部ニ分タレル。第一部ニ於テハ財政的法規、社會的法規及ヒ軍事的法規等ニ於テ、子供ノ多キ家族ノ負擔ヲ輕減スルニハ如何ナル手段ヲ用ユ可キカヲ論究シ、次ニ第二部ニ於テハ生マル子供ノ虛弱ヤ早死ノ原因トナル諸種ノ不徳ヲ防止スル手段ヲ論究シテ居ル。

財政的手段ノ講究ニ於テハ、氏ハ先ヅ國家ガ人民ヨリ要求スルモノ、即チ租税ニ就テ如何ナル手段ヲ用ユレバ子供ノ多キ家族ノ負擔ヲ輕減シ得ルカヲ講究シテ居ル。獨身者及ヒ子供ノナキ家族ニ特別税或ハ超過税ヲ課セントスル策ニ就テハ、氏ハ其ノ實行ノ困難ナルコトト、其ノ正當ニ實

行シ得ラレナイコトトヲ擧ゲテ排斥シテ居ル。併シ今日多クノ直税ニ於テ、種々ノ事情ヲ斟酌シテ行ハレテ居ル免除、或ハ輕減ノ特權ヲ只子供ノ充分ナル數ヲ有スル家族ニノミ與フルコトスレバ、其ハ實行シ易ク、且ツ正當デアラウト論ンジテ居ル。又國家ノ與フル種々ナル扶助ヤ勞働者ノ退隱料等モ、子供ノ多イ家族ニノミ與ヘルコトスルハ、其理由ノ上カラ見テモ正當デアリ、而シテ出生増加ノ獎勵上少ナカラヌ影響ヲ及ボスデアラウト論ジテ居ル。但シ一人ノ子供ヲ養育セシコトナキ老人モ其困窮セル場合ニハ、之レヲ救助スルコトニハ勿論反對シナイノデアル。こゝるそん氏ハ、出生獎勵ノ爲メニ國家其他ノ公共團體ヤ私設團體ノ與フル利益ハ、第三人目ノ子供ノ出生ヲ以テ始ム可キモノデアルト云フるまゝ、ばーりゆあ氏ノ説ヲ評シテ、第二人目ノ子供カラ始メルカ穩當デアリ、且ツ有益デアラウト考ヘテ居ル。尙ホ氏ハ其等ノ利益ヲ與フルコトヲ、只勞働者ノミニ限ラズ、小商工業者ヤ小地主ニモ及ボスノ必要ヲ説イテ居ル。夫レヨリ氏ハ住居稅營業稅、所得稅等ニ就テ、子供ノ多キ家族ヲ保護シテ出生ノ増加ヲ圖ル目的カラ見テ、如何ナル改正ヲ加フ可キカラ詳シク論述シテ居ル。而シテ夫レニ續テ徵兵令ニ對シテヤハリ出生獎勵ノ上カラ見テ如何ナル改正ヲ加フ可キカラ詳シク論述シテ居ル。併シ此等ノ諸問題ニ就テハ詳細ノ點ニ於テ多少あるあ、ばーりゆあ氏ヤべるちよん氏ノ説ト異ナツテ居ル處ハアルカ、大體上ニ於テハ別ニ新シキ處ハナイ。

こゝるそん氏ハ次ニ國家ガ人民ニ與フル扶助金、獎勵金、賞金其他ノ特別ナル利益ニ就テ、出生獎勵ノ目的カラ見テ是ニ如何ナル改正ヲ加フ可キカラ論述シテ居ルガ、此等ノ問題ニ就テモ氏ノ

説ニハ別ニ新見ト思ハルルモノハナイ。ヤハリサキニ述ベシるるあ、ぼーりゆあ氏ヤべるちよん氏の説ニ於テ見ル處ノモノト大同小異デアル。

併シこるそん氏ハ一切ノ官公職ヲ三人以上ノ子供ヲ有スル家族ノ一員タルモノニノミ保留セントスルるるあ、ぼーりゆあ氏ノ説ニ付テハ、左ノ如ク評シテ居ル。

「是ハ余輩ガ同氏ノ説ニ於テ賛成シ難キ唯一ノ點デアル。國家ハ大ナル損害ヲ蒙ルコトナクシテ、官公吏任用ノ範圍ヲ此ノ如クニ制限スルコトハ出来ナイ。官公吏タラントスル佛國人ノ欲望ハ、甚ダ強イカラ、其任用ノ範圍ヲ此ノ如クニ制限シテモ、尙ホ良好ナル官公吏候補者ガ充分ニ得ラレルデアラウトハ、多クノ人々ノ信シテ居ルコトデアル。併シ是レハ過去ノ事實ヲ基礎トシテ立テラレタル見解ニシテ、近頃商工業ニ於ケル俸給ガ大ニ高マリシ以來、何等カノ技量技能ヲ要スル官職ノ大ナル部分ニ於テハ、候補者ノ數ハ十分ニ得ラレナイノデアル。更ニ國家ガ總テノ候補者ヲ任用シテモ絶ヘズ俸給ヲ増加スルニ非ズハ彼等ノ十分ナル數ヲ引キ止メテ居クコトハ出来ナイノデアル」。

余輩ハこるそん氏ノ右ノ言葉ハ果シテ佛國ニ於ケル現状ヲ適切ニ云ヒ表ハセルモノデアルヤ否ヤハ斷言スルコトハ出来ナイガ、トニカク今日デハ佛國人ニ於テモ官吏崇拜熱ハ以前ホド強クナイコトハ事實デアラウト思フ。同氏ハ此ノ如キ意見カラシテるるあ、ぼーりゆあ氏の提案ハ出生獎勵ノ上ニ大シタ效果ヲ與ヘナイモノト考ヘルノデアル。併シ氏ハ子供ノ數ニ應シテ一定ノ割合ニ於テ官吏ノ俸給ヲ増シテ行クコトガ、出生獎勵ノ上ニ少ナカラヌ好影響ヲ及ボスモノト考ヘ、其方法ニ就テ詳シク論述シテ居ル。

こるそん氏ハ夫レヨリ其ノ論究ノ第二部ニ入り、生マルル子供ノ虛弱ヤ、早死ノ原因トナル事柄ヲ芟除シ、或ハ豫防スル必要ニ就テ論ジテ居ル。氏ノ考フル處ニヨレバ、其ノ尤モ重要ナル原

因トナルモノハ、「あるこゝる」中毒ト梅毒トデアル。而シテ此等ノ不徳害惡ヲ豫防スルニ就テハ、公權ノカハ甚ダ有效デアルトテ、氏ハ酒精中毒及ビ梅毒ヲ法律ニヨリテ豫防スル方法ヲ詳シク論ジテ居ル。尙ホ之レニ附加シテ氏ハ墮胎嚴禁ノ必要及ビ方法ヲモ論ジテ居ル。

終リニ氏ハ左ノ如クニ論結シテ居ル。

「以上述べ來リシ處ニ於テハ、余輩ハ只立法的手段ヲ論シタゲケデアル。併シ是レハ余輩ガ國家ノ干渉ニ對シテ盲目的ナ信仰ヲ有スルガ爲デハナイ。出生増加ノ問題ニ於テハ、精神上ノ確信ニヨリテ生マルル心情及ビ意志ノ變化ハ、總テノ他ノ方法ヨリモ多クノ效果ヲ奏スルデアラウ。而シテ此ノ變化ヲ導ク爲ニ尤モ有效ナル活動ハ、著作、雜誌新聞、講演、教育等ニヨリテ行ハルル宗教的活動デアラウ。併シ此問題ハ何ヨリモ第一ニ國民の利害問題デアラカラ、總テノ市民ガ十分ニ之ヲ理解スル爲ニハ、第一ニ國民ノ代表者ガ之ニ對シテ大ナル意義重要ヲ認メテ居ルコトヲ明ラカニ表示スルコトガ必要デアル。尤モ戰爭終結ノ曉ニハ、選舉者ノ大多數ガ此問題ノ重大ナルコトヲ強く感ズルデアラウ。併シ彼等ノ此感ナ只一時的ニ止マラシメズ永ク持續セシムル爲ニハ、將來法律ニ於テ此問題ノ重大ナルコトヲ深ク彫リ込ム決心、殊ニ毎年總テノ人々ヲシテ之ヲ臆ヒ起サシムル財政的法規ニ於テ、深ク之ヲ彫リ込ム決心ヲ有スル代議士ヲ選舉スルト云フコトガ必要デアル。而シテ何人ヨリモ率先シテ此國民復興ノ事業ニ當ル可キ者ハ代議士デアアル。更ニ余輩ノ提案ハ箇人ノ權利ヨリ生起スル私的感情及ビ利益ニ對シテ、國家ガ不當ニ干渉スルコトヲ毫モ意味スルモノデハナイ。余輩ノ提案ハ、單ニ租稅、扶助、及ビ警察上ノ事情ニ關スル其ノ正常の權力ノ運用ニ於テ、國家ガ人口減少ヲ防止スル必要ヲ常ニ顧慮スルコトヲ要求スルモノニ外ナラナイノデアル云云。」

以上述べシこるそん氏ノ説ニ於テ、余輩ハ人口増加策ノ實際的手段ニ關シテハ開戦前ニるゐる、ばーりゆあ氏ヤべるちよん氏ノ唱道シテ居ツタモノ以上ニ何等新シキ提案ヲ見出サナイ。又目下ノ戰爭ガ根本的ニ此問題ノ上ニ及ボセル影響トシテハ、目下ノ戰爭ガ國民一般ニ愛國心ヲ復活セシメタコトニヨリテ、戦後自カラ出生ノ増加ヲ誘致スルデアラウト云フ思想以上ニ何物ヲモ見出

サナイ。而モ此思想其物モ果シテ穩當デアラウカ。尙ホ批判的考察ヲ要スル。併シ之ヲ論評スルニ先タチ、余ハ更ニ開戦後現ハレタル他ノ二三ノ説ヲ調ラベテ見タイト思フ。

十二

近頃佛國代議士ぶれとん氏ノ提案トシテ、出生減少豫防策トシテ一種ノ保險制度ヲ設定セントスル計畫アルコトガ新聞雜誌ニ傳ヘラレテ居ル。併シ余ハマダ其提案ヲ直接ニ閱讀シテ居ラヌカラ詳シキコトハ知ラナイガ、茲ニ一雜誌ノ報道スル處ニ從フテ其大要ヲ述ベテ置ク。

此ノ提案ハツマリ官營ノ保險制度ヲ設定シテ、二人以上ノ子供ヲ有スル家族、及ヒ委任醫ガ優種學上ノ見地カラ見テ適當ト認メタル夫婦ヲシテ保險ノ申込ヲ爲サシメ、出生兒ニ對シテ一定ノ保險金額ヲ一定ノ期間給付シテ以テ出生ヲ獎勵セントスルモノデアル。ヤヤ詳シク其方法ヲ述フレバ、該保險契約者ハ年額十法^{フラン}ノ保險料ヲ拂ヒ込ミ、契約後九ヶ月ヲ經過シテ一兒ヲ擧グルトキハ、直チニ保險金三百法ヲ受取り、又其年ノ終リニハ二百四十法、翌年ニハ百八十法ヲ受取り、而シテ第三年目ヨリ其子ガ滿十三歳ニ達スルマデハ、毎年百二十法ツツ受取ル事ニナルノデアル。余ハ該提案ノ詳細ハマダ知ラナイカラ、茲ニ詳シク批評スルコトハ出來ナイガ、併シ其ノ大體上ノ主意ニ就テ考ヘテ見ルト、確カニ出生ヲ獎勵スル一方法ト思ハレル。サレド茲ニ大ニ注意ス可キコトハ、右ノ保險金額デハ勞働者間ヤ農民間ニ於テ出生ヲ獎勵スル效果ヲ奏スデアラウガ、今日尤モ多ク出生ヲ制限シツツアル中流以上ノ家族ニ於テハ恐クハ何等ノ效果ヲモ奏シナイデア

ヲ剪削思ふ。サレバ若シ眞面目ニ該保險制度ヲ設定セントスルニ於テハ、家族ノ所得高ニ應ジテ保險金額及ヒ保險料ヲ一定ノ割合ニ從フテ増加スルト云フ方針ヲ加味スルコトガ必要デアラウト考ヘル。併シスクスルニ於テハ國家ノ支出ハ甚ダ巨額ニ達スルデアラウ。戰後大ニ財政ノ窮迫スルデアラウト思ハル佛國政府ガ、果シテ之レガ爲メニ巨額ノ支出ヲナシ得ルデアラウカ。大ナル疑問デアル。更ニ保險金額ヲ如何ニ増シテモ、經濟上ノ困難カラシテ出生ヲ制限シテ居ルノデハナイ人々ニ於テ出生ヲ増加セシムルコトハ出來マイト思フ。トニカク該保險制度ハ出生獎勵上一定ノ効果ヲ奏スルデアラウガ、併シ只之レノミニヨリテ到底十分ニ其ノ目的ヲ達スルコトハ出來ナイ。又此制度ノミニヨリテ多大ノ効果ヲ奏セントスルニハ、國家ノ支出ハアマリニ巨額ニ達シテ開戰前ノ佛國政府デモ恐クハ之ヲ試ミルニ躊躇シタデアラウト思ハレルガ、戰後ニ於テハ到底其支出ニ堪ユルコトハ出來マイ。

十三

終リニ余ガ最近ニ手ニセル萬國社會學評論本年三月號ニ於テち―と氏ノ發表サレタル説²⁾ノ大要ヲ述ベテ置ク。

氏ハ先ヅ何レノ方面ヨリ見テモ、戰後人口ノ自動的復興ハ到底不可能ニシテ、人間ハ自分ノ誤失ノ結果ヲ自然ノ作用ニヨリテ修復サレンコトヲ望ム可キモノデナク、自己ノ努力ニヨリテ之ヲ修復セント勉ム可キモノナルヲ詳シク論述シタル後、然ラバ戰後如何ニシテ佛國長ハ人口ノ恢復ヲ

2) Chales Gide, La reconstitution de la population française; Revue Internationale de Sociologie. Mars, 1916.

圖ル可キカラ論究シテ居ル。

今戰後佛國ノ人口ヲ恢復セントスルニ當テ、實際上吾人が若夫婦ニ向ツテ要求ス可キ負擔が如何ニ僅カナモノデアルカヲ考ヘテ見ルト、此ノ問題ノ重大ナルニ比シテ、少々不思議ニ思ハルル程デアル。今日佛國ニ於テ只一人シカ子供ヲ有シナイ夫婦ノ數ハ殆ンド三百萬ホドアル、又二人ノ子供ヲ有スルモノハ二百五十萬餘アル。ソレデ若シ此等ノ五百五十萬餘ノ夫婦ガ夫レ夫レモ一人子供ヲ殖ヤストスルモ、五百五十萬人アマリ佛國人ガ殖ヘルコトトナツテ、目下ノ戰爭ニ於テ失フタヨリモ遙カニ多イノデアル。モツトモ此等ノ夫婦ノ甚々大ナル數ハ今ヤ夫ノ戰死ニヨリテ破壊サレ、人口ノ増加ニ關シテ其ノ割前ヲ貢獻スルコトガ出來ナクナツテ居ルガ、併シ其殘リノモノダケデモ、若シ其割前ヲ貢獻スレバ戰爭ニヨリテ失フタル人口ヲ恢復スルニハ充分デアルト思フ。勿論之レハ戰後スグニト云フ意味デナイ。蓋シ子供ハ彼等自身成人トナツタトキニ於テ始メテ戰沒セル成人ヲ補充スルコトガ出來ルカラデアル。而シテ是ハ戰後三十年餘ヲ經タル後デア
ル。吾人若シモ一少シク要求シテ子供三人ヲ生ミ之ヲ養育スルコトヲ夫婦的及ビ愛國の義務ノ最小限トスルニ於テハ、年々ノ出生數ハ百萬ヲ越ヘ、年々ノ増加數ハ三十萬人以上ニ上ルノデアル。
併シ人口増加問題ニ就テ、吾人ノ要求スル努力犧牲カ如何ニ僅カデアツテモ、佛國民が果シテ其要求ニ應ズルデアラウカ。是レ戰後ノ翌日ノ尤モ恐ロシキ「未知」^{アンノニユ}デアル。而シテ此ノ問題ニ比較スレバ「明日」ノ總テノ他ノ問題ハ第二位ニ下ルノデアル。何ントナレバ戰爭ノ結果ガ如何ニアラウトモ、政治上及ヒ經濟上ノ將來ノ勢力ハ交戰國民中、其ノ人口ヲ尤モ迅速ニ恢復シ、其競爭

者ノ先キニ進ンダモノニ屬スルカラデアル。

然ルニ一方カラ考フレハ開戦前ニ於テ佛國人ヲシテ出生ヲ制限セシムルニ至レル同一ノ動機カ戦後モ其儘ニ持續スル恐レガアル。否ナ更ニ一層強ク勵クデアラウトサヘ想像サレ得ル。ト云フノハ戦後大ナル増税ニヨリテ各家族ノ所得ガ甚タ減少サレル上ニ、物價ガ騰貴シテ生活費ガ大ニ高マルト推察サレルカラデアアル。モツトモ戦後ノ税租政策ハ子供ノ多キ家族ノ負擔ヲ出來ルダケ輕減スル方針ヲトルデアラウ。而モ其財政狀態ハ到底彼等ノ負擔ヲ十分ニ輕減スルヲ許サナイデアラウ。況ンヤ多クノ經濟學者カ人口減少問題ノ唯一ノ實際的解決案トシテ呈出シテ居ル出生扶助金トカ、賞金ト云フガ如キモノヲ支出スルコトハ到底不可能デアラウ。但シ戦争ノ爲ニ必要上簡易ナル生活ヲ營ンダコトガ遂ニ習慣トナツテ、戦後ハ開戦前ホド國民一般ニ奢侈ナル生活ヲ憧憬シナイ様ニナリ、幾分カ上述ノ原因ヨリ起ル生活ノ困難ヲ減少セシメルデアラウト云フ事モ亦想像サレ得ル。尙ホ戦後ハ人間ノ損失ガ殊ニ農業人口ニ於テ強ク感ゼラレ、而シテ人口減少ノ一形態タル都市移住ガ益々盛ンニ行ハルルニ至ル恐レガアル。更ニ戦争中ニ於ケル花柳病ノ傳播ガ人口復活ノ事業ノ上ニ重大ナル惡影響ヲ及ボス恐ガアル。又戦争ニヨリテ尤モ強健ナ尤モ元氣アル分子ガ奪ヒ去ラレタ事ハ、次代ノ數ノミナラズ質ノ上ニモ惡影響ヲ及ボス恐ガアル。以上述べシガ如キ方面カラ考察スルト、吾人ハ大ニ悲觀セザルヲ得ナイガ、併シ他ノ方面カラ考察スルト又樂觀ス可キ理由ガ發見サレルノデアル。余輩ハ單ニ宗教的信仰ノ復活ニヨリテ新まるさす主義ノ傳播ガ停止サレルトカ、又ハ「あるこゝりすむ」ガ禁止サレテ少クモ死亡率ガ大ニ減少スルト

カ云フガ如キ、大體上ノ理由ダケデナク、出生増加ヲ助長スル一層特殊のナ動機ヲ發見スルコト
ガ出來ルト思フ。例ヘハ今日人々ハ戰爭ノ教訓ト云フコトヲ盛ンニ説キ、而シテ戰後佛國民ハ此等
ノ教訓ヲヨク遵奉スルデアラウト云々期シテ居ルガ、今日下ノ大戰爭ノ勃發ニヨリテ學バレタル教
訓ガアルトスレバ、其ハ確カニ一國ノ人口ノ大ナルコトガ其國ニ優勝（先ヅ第一ニ軍事上ノ優勝
ニシテ、次ニ又政治的勢力ノ優勝）ヲ與フルモノデアルト云フ教訓デアル。吾人ハ目下ノ大戰爭
ニヨリテ尤トモ痛切ニ學ンダ教訓ハ、ツマリ一國ノ優勝ハ先ヅ其人口數ノ大ナルコトニヨリテ定
マルト云フ事デアル。一國ノ人口數ノ大ナルコトハ、實ニ戰場ニ於テ直接ニ其國ノ優勝ヲ證明ス
ルノミナラズ、中立國ノ意向ヤ世界ノ輿論ノ上ニ及ボス影響ニ於テモ亦之ヲ示シテ居ル。今日總
テノ國民間ニ於テ獨逸ニ同情スル思潮ガ常ニ流レ、更ニ或國民ニ於テハ其思潮ガ大ニ強マリテ遂
ニ獨逸ト共ニ戰場ニ立ツニ至ツタノハ何故デアルカ。是レツマリ獨逸ノ植民カ地球上ノ總テノ點
ニ散布シテ其處ニ獨逸ノ勢力、言語、新聞雜誌商業等ヲ扶植シタカラデアル。而シテ目下ノ戰爭ニ
於テモ獨逸ノ政府ハ動員ノ爲メニ彼等ヲ本國ニ呼び戻サナカッタ。尤モ呼び戻スコトノ出來ナカ
ッタ場合モアル。併シ之レガ出來タ場合デモ、獨逸政府ハ寧ロ呼び戻サナイ方針ヲトツタ。是レ
其等ノ諸國ニ彼等ヲ止メタ居イテ、祖國ノ爲メニ有益ナル輿論ヲ造ラシムルコトガ、彼等ヲ呼び
戻シテ既ニ充分ナル本國ノ軍隊ヲ其ノ上ニ増加スルヨリモ一層有益デアルト考ヘタカラデア
ル。併シカカル政策ハ只人口ノ充分ナル國家ノミガ獨リ實行シ得ルモノデア
ル。然ルニ佛國民ハ近來
世界ニ何物ヲ輸出シテ居ルカ。人間ハ全ク送ツテ居ラナイ、又商品ハ僅カシカ送ツテ居ラナイ。併

シ書物ハドツサリ送ツテ居ル。是レモ決シテ惡イコトデハナイ。ヤハリ佛國民ガ世界ニ於テ有スル勢力ノ一種デアアル。之レカ爲メニ佛國民ハ世界ニ於テ多クノ友人ヲ得タ。目下ノ戰爭ハ明ラカニ佛國民ハ獨逸國民ヨリモ多クノ友人ヲ世界ニ有スルコトヲ示シテ居ル。而シテ其等ノ友人ハ佛國民ニツテ勿論大切デアアル。併シ、併シダ。祖國ヲ防衛スルコトガ問題トナル場合ニハ、友人ハ決シテ子供ダケノ價值ヲ有タナイノデアアル。

以上述ベシ處ニヨリテ見レバ、ビービ氏ハ戰爭ノ教訓トシテ人口數ノ大ナルコトガ如何ニ國民ノ優勝ヲ發揮セシムルモノデアルカヲ十分ニ證明シテ居ルガ、併シ佛國民カ戰後如何ニシテ人口ノ増加ヲ圖ル可キカハ全ク論ジテ居ラナイ。而シテ戰後ノ佛國ノ財政的經濟的狀態ニ關スル氏ノ意見カラ推考スルト、佛國民ハ戰爭ノ教訓トシテ人口増加ノ必要ヲ痛切ニ理解スルト同時ニヤハリ出生ノ制限ヲ持續シ、實際上人口ヲ増加シナイデアラウト云フ悲觀的ナ推論ニ歸着スルノデアアルマイカト思ハレル。同氏ハ本論文中ニ於テモサキニ述ベシ如ク悲觀的ナ推察ヲナシ得ル色ナ根據ヲ擧ゲテ居ルノデアアル。

十四

却說余ハ以上述ベ來リシ處ニヨリテ、開戰前ヨリシテ近來眞面目ニ又熱心ニ人口維持策或ハ増加策ヲ講究シテ居ツタ佛國ノ學者ガ、實際上如何ナル手段ヲ工夫シタカヲ明ラカニシタト思フガ、是レニヨリテ戰後佛國民ガ人口増加ヲ圖ラントスルニ當テ如何ナル手段ヲ用ユルデアラウカハ

3) Charles Gide, Les dépenses de la guerre et leurs conséquences économiques. Scientia, I-II, 1916.

大體上推察シ得ラルト思フ。然ルニ先ヅ其等ノ諸手段ヲ概觀スルト、比較的ニ實行シ易キモノハ其效果少ナク、之レニ反シテ相當ノ效果ヲ擧ゲルコトガ出來ヤウト思ハルモノハ、其實行ガ殊ニ戰後ノ財政狀態ニ於テ、甚ダ困難デアラウト思ハレル。更ニ尤モ根本的ナル問題ハ、上ニ述ベシ諸家ノ說ニ於テモ明ラカニ觀取シ得ラルル如ク、佛國民ノ精神ノ改造ニシテ、而シテ此精神ノ改造ハ恐クハ尤モ困難ナル事業デアラウト思フ。尤モ目下ノ大戰争ニヨリテ人口減少ノ害ヲ最も深刻ニ學ンダ佛國民ガ、其精神急ニ一變シ、萬難ヲ排シテ自ラ進ンテ出生ノ増加ニ努力シ、子供ノ多キヲ尊ビ、又之ヲ誇ルニ至ルト云フガ如キ奇蹟的ナ傾向ガ、戰後突然彼等ノ間ニ大ニ發達スルカモ知レナイ。併シカカル傾向ハ平時ニ於テ永ク持續シ得ルヤ否ヤハ大ニ問題デアル。更ニ戰爭カ今後如何程繼續シ又如何ナル終結ヲ告グルヤニヨツテ右ノ傾向ガ果シテ發達スルヤ否ヤ又假令發達シテモ永ク持續シ得ルヤ否ヤハ大ニ影響サレルト思フ。併シ何レニシテモ、戰後佛國民ガ若シ自己ノ將來ノ運命ヲ全ク悲觀シ自忘自棄スルニ至ラザル以上ハ必ズヤ人口ノ増加ニ向フテ大ナル又ハ多少ノ努力ヲ試ミルデアラウト思フ。而シテ其場合ニハ上ニ述ベシ諸家ノ立テシ手段ノ何レカラ實行スルヨリハ、或ハ其等ノ諸手段ヲ適當ニ結合シテ併用スルヨリハ、外ニ勝レタ方法ハアルマイカト思フ。而シテ現代文明ノ尤モ進歩シテ居ルト云ハル、佛國民ノ戰後ノ運命ガ、根本的ニハ其人口問題ニヨリテ決定セララルモノデアアルコトヲ考フルトキハ、吾人ハ戰後佛國民ガ如何ナル人口政策ニヨリテ復活ヲ圖ルカ、又其ノ復活ノ努力ハ果シテ成功スルカハ、密ニ佛國民ノ運命ニ關シテ重大ナル問題デアルバカリデナク、現代文明國民ノ總テノ運命ニ關シテ甚ダ重大ナ

又甚ダ興味深キ問題デアルト考ヘルノデアアル。余ハ茲ニ敢テ佛國民ハ戰後如何ナル人口政策ヲト
ル可キカヲ示教セントスルノデモ、亦トルデアラウカヲ具體的ニ詳細ニ豫言セントスルノデモナ
イ。只大體上如何ナル政策ガ實行シ得ラルルカヲ推察セントスルダケデアアル。サレバ上文ニ述ベ
シ如ク同國ノ學者ノ熱心ナル講究ヲ調ラベテ戰後大體上如何ナル政策ガ立テ得ラルルカヲ示シ、
且ツ多少ノ批判的リマークスヲ加フル以上ニ深く立チ入ツテ論究シヤウトハ思ハナイノデアアル。

十五

余ハ次ニ目ヲ轉ンジテ獨逸ニ於ケル人口維持策或ハ増加策ノ講究ヲ考察シテ見タイト思フ。佛
國ニ於ケル出生率減少ノ傾向ガ段々進ンデ行クノヲ見テ、心潛カニ喜ンデ居ツタ獨逸ノ學者ガ、近
來自國ニ於テモ同一ノ傾向ガ著シク現ハレ來レルコトヲ見テ急ニ騒ギ出シ、盛カンニ此問題ヲ講
究シ始メタノデアアルガ、獨逸人種衛生協會 Deutsche Gesellschaft für Rassen-Hygieneノ如キハ、
開戰前ヨリシテ既ニ人口維持策或ハ増加策ヲ講究スルノ必要ヲ唱ヘテ居ツタ。而シテ一九一四年
六月いゝな市ニ於テ同會委員會ハ出生問題ニ關シテ左ノ綱領ヲ決議シテ居ル。

危險。

一、獨逸國民ノ將來ハ甚ダ危險ナル狀態ニアル。獨逸國民ハ猶豫ナク且ツ大ナル努力ナ以テ内外ノ政策并ニ國民全體ノ生活ヲ
人種衛生的ニ改革スルニ非ズハソノ國民及ヒ其ノ發展ノ獨立ヲ持續シ難ク、而シテ其ノ尤モ緊急トスル處ハ健全有
爲ナル家族ノ繁殖ヲ促進ス可キ法規ヲ制定スルコトデアアル。

二、健全有爲ナル家族力迅速ニ減少シ、今日ニ於テモ既ニ其ノ維持ニ對シテ繁殖ノ十分ナラザルコトハ數代ノ後ニ獨逸國民ノ

文化、經濟及ビ政治ノ退行ヲ誘致スルデアラウ。

三、不十分ナル繁殖ハ其ノ一部分ハ生殖能力ノ減損、殊ニ淋病、梅毒及ビ酒精ニ基因スルモノデアル。

四、サレド目下ノ出生減退ノ主要原因ハ任意ニ小供ノ數ヲ制限ヘルコトガ益々増加セルコトデアル。

五、子供ノ數ヲ任意のニ制限スル主要ナル動機、

(a) 子供ノ數ノ多キハ家族ノ經濟狀態ヲ不良ナラシムルコト、多數ノ子供アラバ注意ノ行キ届イタ保護及ビ教育ヲ施スコトガ困難ニナルト云フ心配、(b) 遺産分配ニ就テノ顧慮、(c) 妻ガ家庭外ニ於テ勞働スルコトガ多數ノ子供ヲ養育スルコトヲ困難ナラシムルコト、(d) 都市ノ生活困難ニ由ル窮迫、(e) 出生減退ハ忌憚ナキ廣告ト、益々投下サレル資本トニヨリテ行ハルル妊娠豫防

及ビ墮胎藥ノ製造并ニ組織の販賣更ニ新まるさす主義ノ普及ニ依テ甚シク促進サレテ居ルコト。

防遏法

獨逸人種衛生學會ハ數ト能力トニ於テ十分ナル子孫ヲ獲得スル爲メニ次ノ事項ヲ要求スル、

一、子供ノ多キ家族ヲ造ル主意ニテ相續權ヲ規定シ、以テ大ニ國內血氏ヲ獎勵スルコト、

二、小供ノ多キ都市居住ノ家族ノ爲メニ家族保護所ヲ設立スルコト、

三、父母ニ根本的ニ必要ナル教育資金ヲ給與シ、又官吏其ノ他ノ傭員ノ待遇ニ於テ子供ノ數ヲ斟酌スルコトニヨリテ、十分

子供ノ多キ家族ニ經濟上ノ獎勵ヲ與フルコト。

四、男子ノ種々ナル職業(將校、官公吏)ニ由テ起ル所ノ婚姻ノ困難ヲ可及的除去スルコト、

五、あるこぼる、烟草及ビ贅澤品稅ヲ高メ、尙ホ兵役義務代價稅ヲ高メテ第三項ニ舉ゲタル目的ニ資スルコト。

六、妊娠中絶或ハ不妊法ガ醫術的ニ希望サル場合ニ於ケル取扱ヲ法律的ニ規定スルコト、

七、總テ生殖能力ヲ危クスル所ノ害物、殊ニ淋疾及ヒ梅毒、結核、慢性酒精中毒、職業的中毒、職業ニ從事スル婦人ニ對スル

職業的有害作用等ヲ防遏スルコト、

八、結婚前ニ於テ健康證明書ノ義務的交換ヲナサシムルコト、

論 說 戰後ノ人口增加政策(三、完)

第三卷 (第五號 七二七) 一一一

九、母親ノ理想、家族精神及ビ單純生活ノ鼓吹サレタル藝術上ノ傑作ニ對シテハ多大ノ賞與ヲナスコト、

十、次ノ世代ニ對スル國民ノ献身の覺悟及ビ義務的感情ヲ喚起シ、此ノ主意ニ於テ少年ニ有力ナル教育ヲ施スコト(余輩ノ研究室ニアル獨逸ノ雜誌中右綱領ノ詳細ヲ記載セシモノナキヲ以テ、以上述ベシコトハ主トシテ富士川博士主幹「人性」ノ記事ニヨル。)

以上述ベシ處ニヨリテ察セラルル如ク、獨逸ニ於テモ既ニ開戦前ヨリ人口維持策或ハ増加策ノ必要ヲ唱フル有力ナル團體ガアツタノデアルガ、然ルニ開戦後ニ致ツテハ其ノ必要ハ益々痛切ニ又汎ク一般ニ認メラレ、種々ノ協會團體ニ於テ其手段ヲ講究スルニ至レルノミナラズ、更ニ特ニ之レカ講究ヲ目的トスル幾多ノ協會團體ガ起ツテ居ル様デアル。今日ハ獨逸ノ新聞雜誌ノ我國ニ到着スルモノハ稀レデアルカラ、此等ノ團體ノ數ヤ活動ニ付テ到底詳シク知ルコトハ出來ヌガ、既ニ余輩ノ目ニ止マリシモノダケデモ少ナクナイ。而シテ新タニ設立サレタル團體トシテハ Die deutsche Gesellschaft für Bevölkerungspolitik, Die Zentralstelle für Volkswohlfahrt, Bund zur Erhaltung und Mehrung der deutschen Volkskraft 等ハ殊ニ有力ナルモノデアルヤウニ思ハレル。此等ノ團體ノ中デ獨逸人口政策學會ノ事ニ付テハ余ハヤヤ詳シク學ブコトガ出來タカラ、茲ニ少シク同會ノ事ヲ述ベテ開戦後ノ獨逸ニ於ケル人口増加政策問題ノ一斑ヲ示シテ置カウト思フ。

此學會ハ人口學者トシテ著名ナルウおるふ教授の唱道ニヨリテ昨年十月ニ設立サレタルモノデアルガ、同月十八日衆議院議場ニテ開カレタル第一回總會ニ於テ、議長ウおるふ氏ノ發表サレタル「ぶろぐらむ」⁴⁾ニヨリテ見ルニ、先ツ同會ノ目的ハ「國民ノ尤モ貴重ナル資本ハ人間デアルト云フ考ニ從フテ出生ノ減退ニヨリテ獨逸國民ガ脅カサレテ居ル多數ノ危險ヲ艾除スルコト」ニアルノ

4) Zeitschrift für Socialwissenschaft N.F. VI. Jahrgang, Heft. 11. Politisch-Anthropologische Monatsschrift. XIV. Jahrg. Nr. 10.

デアル。然ラバ此目的ヲ達スル爲メニ同會ノ主張スル手段ハ如何ナルモノデアルカト云フニ、其
主要ナルモノヲ舉グレバ左ノ如クデアル。

1. 結婚セントスル意志、更ニ多クノ子供ヲ得ントスル意志ヲ大ニ鼓舞スルハ最も肝要デアルコト
2. 總テ結婚期チ早クスル方針ヲ採ルコト、例ヘハ職業豫備教育ノ一部分ハ之ヲ職業現習ニ移シテ早ク給料ノ得ラルル様ニ圖ルコトヘ、結婚期チ早メル爲ニ甚ダ有益ナル方法デアル。今日普魯西ニ於ケル男子ノ平均結婚年齡ハ二十九歳ニシテ女子ノ夫レハ二十五歳乃至二十六歳デアルガ、此等ノ結婚年齡チ男女ニ通ジテ低減セシムレバ、一方ニ於テハ産兒ノ數ハ増シ、他方ニ於テハ男子ノ婚姻外的性交ハ減ジ、而シテ其レガ爲ニ花柳病ハ減少シ、更ニ其結果トシテ不妊、流産、早産、薄弱兒ノ出産等ノ諸弊害ガ大ニ豫防サレルコトナル。

3. 經濟狀態ノ改善、殊ニ賃銀問題及ヒ住居問題ハ重要デアル。子供ノ多イコトガ生活上大ナル困難ヲ起ス恐アル人々ニ向ツテ、其ノ困難ヲ除キ去ル方法ヲ講ゼズシテ子供ノ多キ希望ムハ無理デアル。又子供ノ多キ家族ガ其養育ノ爲メニ受クル負擔ヲ輕減スル爲ニ獨身者、子供ナキモノ、子供ノ少ナキモノ等ヲシテ適當ニ彼等ヲ助ケシムル方法ヲ講ズルコトガ肝要デアル。
4. 新ラタニ生活可能ノ途ヲ開キ、農業政策移民政策等ヲ發達サセルコト、大都市生活ノ多クノ不利益ヲ避ケシムル爲メニ國內殖民ヲ奨勵スルコトガ必要デアル。

5. 任意の流妊及ヒ産兒制限ニ對シテ奮闘スルノミナラズ、又不任意的ナル不妊及ヒ兒數ノ少ナキヲ豫防シナケレバナラヌコト、而シテ是ガ爲ニ花柳病ノ蔓延ヲ防ギ、其撲滅ヲ圖ルコトヤ、職業的勞働ノ障害ニ對シテ既婚ノ女子及ビ未婚ノ小女ヲ保護スルコトヤ、又分娩ノ扶助ヲマスマス完全ニシ、有效ナル母親保護法ヲ設ケスルコト等ガ肝要デアル。

6. 乳兒死亡ノ豫防及ビ兒童ノ保護ノ方法等ヲ大ニ講究スルコト、

獨逸人口政策學會ノ目的及ビ政策的手段ノ大要ハ以上述べシガ如キモノデアルガ、尙ホ人口増加問題ニ付テ熱心ニ講究シテ居ルふおん、ペーるびんのー氏が、昨年「人種及社會生物學雜誌」ニ於

ニテ發表サレタル論文ヲ見ルニ大體上同様ナ説ガ主張サレテ居ル。併シ氏ハ一層詳細ニ立チ入ツテ論ジテ居ル處モアルカラ參考ノ爲メ茲ニ氏ノ説ノ大要ヲ述ベテ置ク。

人口ノ増加チ圖ルニハ二種ノ方法ガアル。一ハ出生率ノ減退ヲ防クコトニシテ、二ハ死亡率ノ減少ヲ圖ルコトデアル。國民ハ一般ニ大家族ノ重要ヲヨク理解スル様ニ教育サレテバナラス。家屋條例ハ修正セラレ、衛生的ナ家屋ガ總テノ人々ニ供給セラレ、家主ガ其ノ借家人又ハ使用人トシテ子供ノナキ夫婦ヲ選ブコトハ嚴禁サレテバナラス。今ヤ捕虜ノ勞働ニヨリテ多大ナル荒地ガ耕作サレテ居ルガ、此事業ハ戦後モ尙ホ繼續セラル可キモノニシテ、而シテ都市ニ住居スル貧困ナル多數ノ家族チ其處ニ移スコトガ出來ル。尙ホ敵國ガ吾國ニ割讓スル土地ハ總テ從來ノ住民ヲ除キ、只土地ダケチ吾國ノ手ニ渡ス様ニスルコトハ、吾國ノ將來ノ國境地方ヲ安全ニスル爲ニモ殊ニ望マシキコトデアル。政府ハ大家族ノ重要ヲ承認シ、其ノ使用スル總テノ人々ノ俸給實銀其他ノ待遇ヲ家族ノ大キサニ比例シテ増加スル方針ヲ採ラテバナラス。出來可クハ私人ノ使用人ニ於テモ同様ナル待遇法ガ採用サレンコトヲ希望スル。子供ハ成年ニ達スルマデハ父母ノ家ナ去リ、又自分ノ實銀チ自分ノミ獨リ費ヤスコトヲ出來ルダケ禁シ、両親ニ其ノ實銀ノ一部分(二割クラヒガ良イト思フガ)ヲ呈供セシムルコトニシタイ。帝國保險法ハ結婚セラルモノ及ビ大家族ニ對シテ特ニ有利ナル條ニ改正セラル可キモノデアル。婚姻契約省及ヒ離婚者ハ避妊法ノ廣告ヲ兩ノ如クニ注ガカケラレルコトヨリ保護セラル可キモノデアル。又カカル廣告チナスモノハ嚴重ニ處罰セラル可キモノデアル。而シテ避妊ニ付テ他人ニ教ユルコトハ只醫師ノミ許可セラル可キモノデアル。總テノ保險セル女子ニ對シテ看護婦、助産婦及ヒ醫師ノ勤務ガ無料ニテ給與サレルコト、妊娠ノ最後ノ六週間ハ疾病保險金ノ全額ガ支拂ハレルコト、其他分娩後一定ノ週間一定ノ特權ノ與ヘラレルコト等ニヨリテ乳兒ノ死亡ハ大ニ減少サレヤウト思フ。又母親保險ニ關シテ之ヲ有效ナラシムル爲ニハ種々新シキ條項ヲ設ケルコトガ必要デアル。而シテ幼兒及ビ兒童ノ保護養育ニ關シテ地方局ニ於テ今一層ノ便宜ヲ圖ルコトガ必要デアル。同ジ目的并ニ孤兒ノ養育ノ爲ニ設立サレタル私立團體ハ國家ニヨリテ獎勵セラレ、又補助セラル可キモノデアル。而シテ此等ノ目的ノ爲ニ要スル基金ハ一部分ハ獨身者及ビ子供ノナキ家族ニ特別稅ヲ課スルコト及ビ一部分ハ無遺言ニテ死亡シ而シテ第三親等内ノ相續者ナキモノノ遺産ヲ政府ニ沒收スルコト等ニヨリテ供給スルコトガ出來ルト思ハレル。

5) Dr von L'ehr-Pinnow, zu welchen bevölkerungs-politischen Massnahmen muss uns der Krieg veranlassen? Archiv für Rassen-und Gesellschafts-Biologie, 1915.

以上述べ來リシ處ニヨリテ、今日獨逸ノ學者カ人口増加問題ニ付テ如何ナル考ヘテ抱イテ居ルカヲ大體上推察スルコトガ出來ルト思フガ、今之ヲ佛國ノ學者ガ開戰前ヨリ熱心ニ主張シテ居ツタ説ニ比較シテ見ルニ、何等別段ニ新シキモノヲ見出サナイ。只獨逸ノ學者ノ主張スル手段ハ佛國ノ學者ノ夫レニ比較シテ一般ニ温和デアルト思ハレル。少クモ佛國ノ學者ノ主張スル程過激ナ手段ヲ主張スルモノハ獨逸ノ學者間ニハナイ様デアアル。是レ恐クハ獨逸ニ於テハ人口減少ノ危險ハ佛國ニ於テホド切迫シテ居ラナイガ爲デアラウト思フ。併シ若シ戰後獨逸ニ於テモ人口減少ノ事實ガ著シク目前ニ現ハレ、而シテ今日獨逸ノ學者ノ主張スル手段グラヒデハ到底人口恢復ノ見込ガ立タナイ様ナ形勢ガ起ルニ於テハ、恐クハ彼等モ亦佛國ノ學者ノ主張スル如キ過激ナ手段ヲモ敢テ主張スルニ至ルデアラウト推察サレルノデアアル。

十六

却説戰後佛國及ビ獨逸ニ於テハ人口増加問題ガ盛ンニ論議サレルデアラウト思ハル理由、及ヒ其場合ニ人口増加ノ政策トシテ如何ナル手段ガ主張サレルデアラウカハ、以上述べ來リシ處ニヨリテ大體上推察サレルト思フガ、併シ其等ノ諸手段ノ中デ何レガ實行セラルルデアラウカハ、主トシテ戰後ノ狀態ノ如何ニヨリテ決定サレルト思フカラ、今日ヨリシテ之ヲ確カニ豫見スルコトハ困難デアアル。併シサキニモ述べシ如ク、其實行ノ比較的ニ容易ナルモノハ其效果少ナク、而シテ其效果比較的ニ大ナルモノハ、其實行ハ甚ダ困難デアルト思ハレルカラ、議論ノ盛カンナル割合

ニドレホド實際ノ效果ガ擧ゲラレルカハ大ニ疑問デアルト思フ。サレド如何様ニカシテ人口ノ増加ヲ圖ラナイ以上ハ、彼等ノ戰後ノ活動ハ到底望マレナイカラ、多分上ニ述ベシ種々ナル手段ハ其實行ヲ試ミラレルデアラウ。而シテ夫レニヨツテ吾人ハ人口學上及ビ人口政策論上大ニ學ブ處ガアラウト信ズル。吾國今日ノ狀態ニ於テハ出生率減少ノ傾向ハ毫モ現ハレテ居ラナイ。否ナ却テ其ノ増加ノ傾向スラ見ヘテ居ルンデアル。而シテ人口増加ノ趨勢ハ頗ル著シク最近五年(大正二年以前)ノ平均ヲ見ルニ、毎年千人ニ就テ約十五人ノ増加率ヲ示シテ居ル。サレバ今日ノ處デハ吾國ニ於テハ、別ニ人口増加政策ヲ講究スル必要ハナイノデアル。而モ近來配偶アルモノニ對スル配偶ナキモノノ割合ハ漸次増加スル傾向ガアリ、又都會ニ集中スル傾向ハ著シク現ハレ來リ、其他種々ノ方面カラ考察シテ我國ニ於テモ早晚出生率減少ノ傾向ガ現ハレテクルノデハアルマイカト云フ恐レガアル。殊ニ我國ノ衛生狀態ハ尙ホ不完全ニシテ、死亡率モ隨分高イノデアルカラ、若シ出生率減少ノ傾向ガ現ハレ來レル場ニハ、其レガ爲ニ受クル人口の損害ハ獨逸ヤ佛蘭西ナゾヨリモ一層大ナルカモ知レナイ。サレバ戰後此等ノ諸強國ニ於ケル人口増加政策ノ講究及ヒ施設ニ付テハ、吾人ハ多大ナル注意ヲ拂フ必要ガアルト思フ。是レ茲ニ聊カ此問題ヲ論究シテ吾國ノ識者ノ注意ヲ促サントスル所以デアル(大正五年六月十八日)